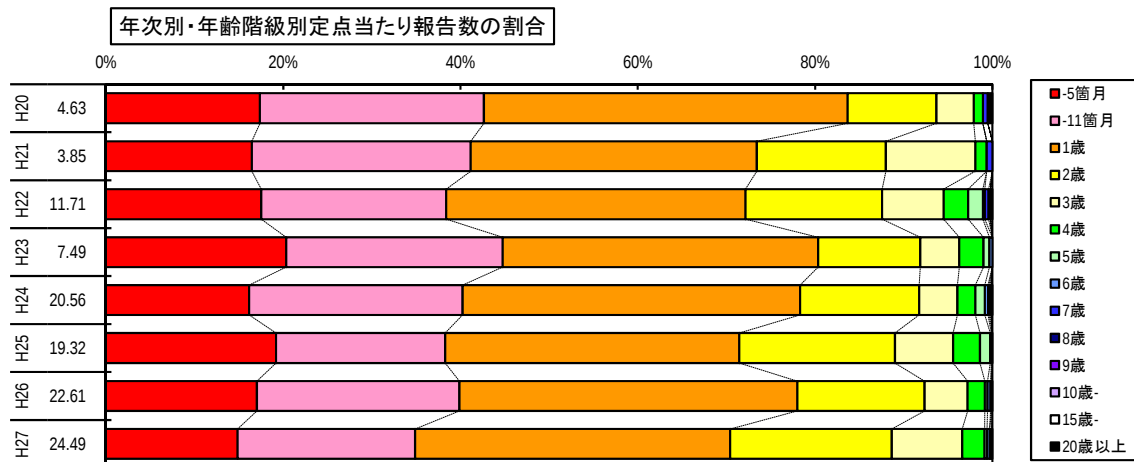


(ア) RSウイルス感染症

年齢階級別では、1歳(35.6%)が最も多く、次いで6～11箇月(20.0%)、2歳(18.2%)、0～5箇月(14.8%)の順となり、2歳以下が全体の88.6%を占めた。



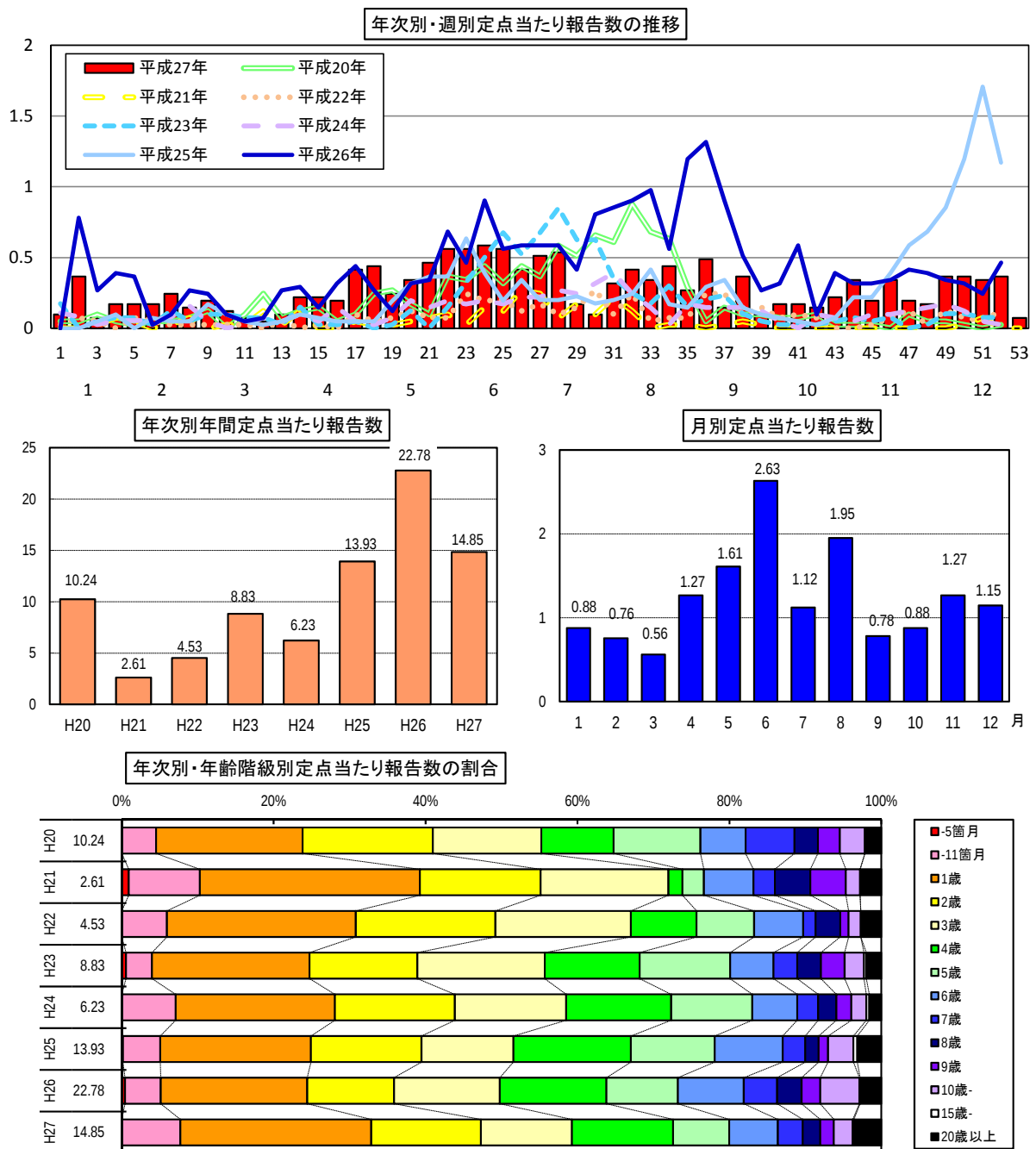
(イ) 咽頭結膜熱

平成27年は年間報告数609例、年間定点当たり報告数14.85、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比1.32、前年比0.65であった。

過去7年間の年間定点当たり報告数と比べると、最も多かった平成26年に次いで多かった。

月別定点当たり報告数では、6月(2.63)、8月(1.95)、5月(1.61)が多かった。

年齢階級別では、1歳(25.1%)が最も多く、次いで2歳(14.4%)、4歳(13.3%)、3歳(12.0%)の順となり、1～4歳が全体の64.8%を占めた。



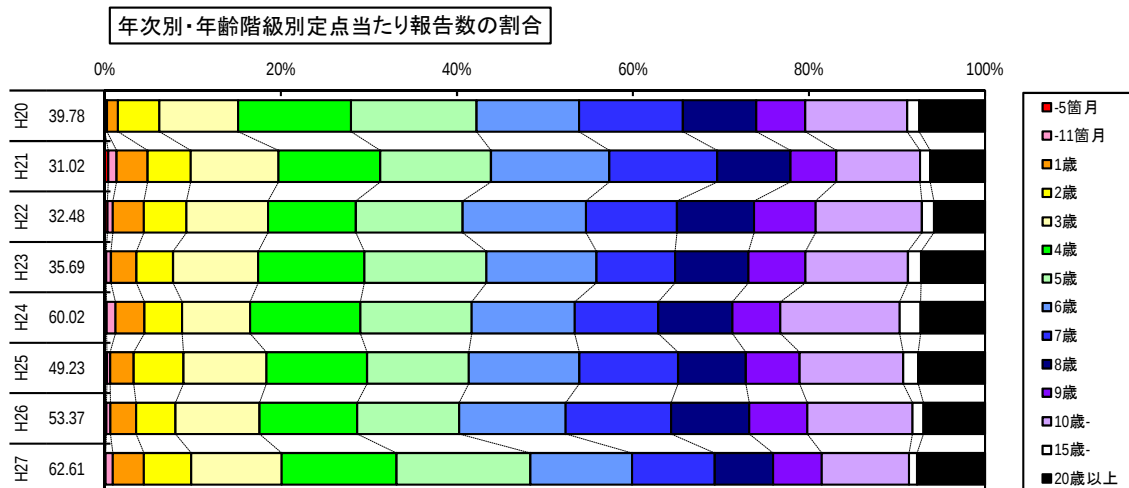
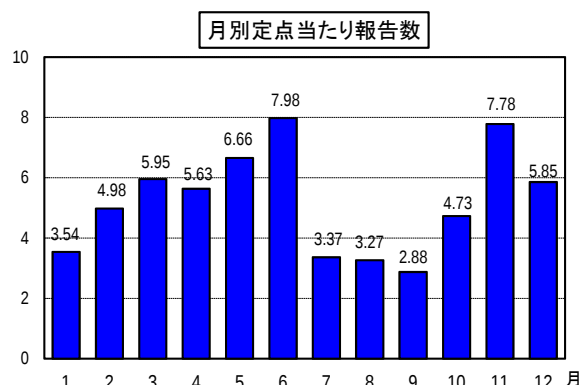
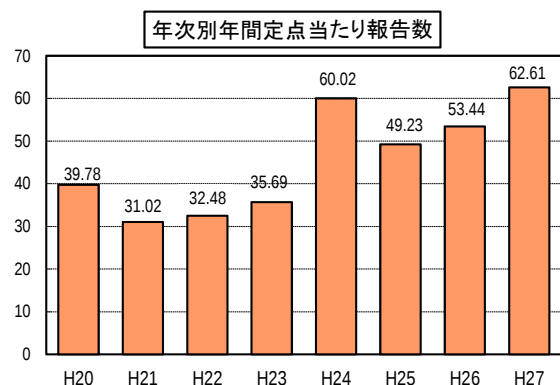
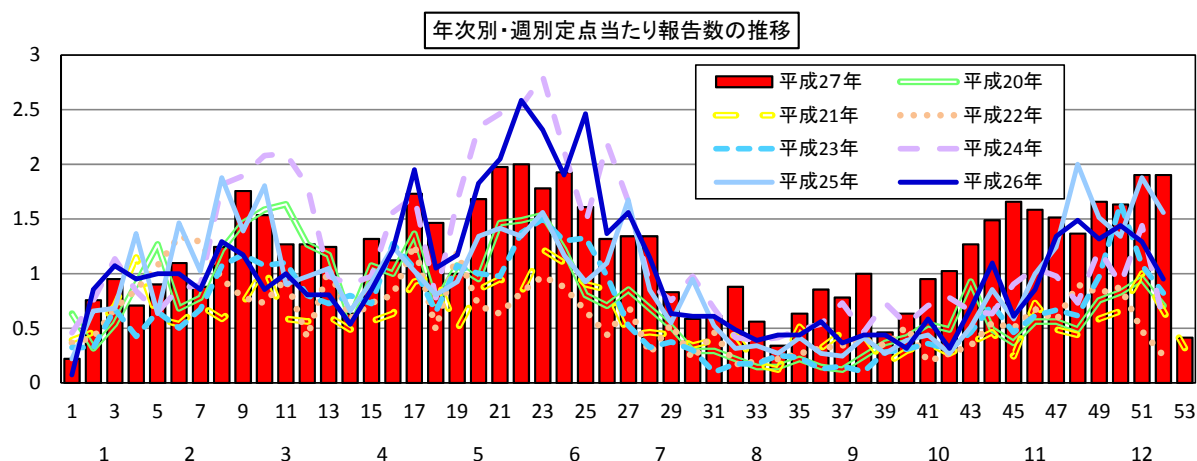
(ウ) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

平成27年は年間報告数2,567例、年間定点当たり報告数62.61、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比1.36、前年比1.17であった。

過去7年間の年間定点当たり報告数と比べ、最も多かった。

月別定点当たり報告数では、6月(7.98)、11月(7.78)が多く、1月、7月～9月の報告数は少なかった。

年齢階級別では、5歳(15.2%)が最も多く、次いで4歳(13.1%)、6歳(11.6%)、3歳(10.3%)の順となり、3歳～6歳が50.2%を占めた。



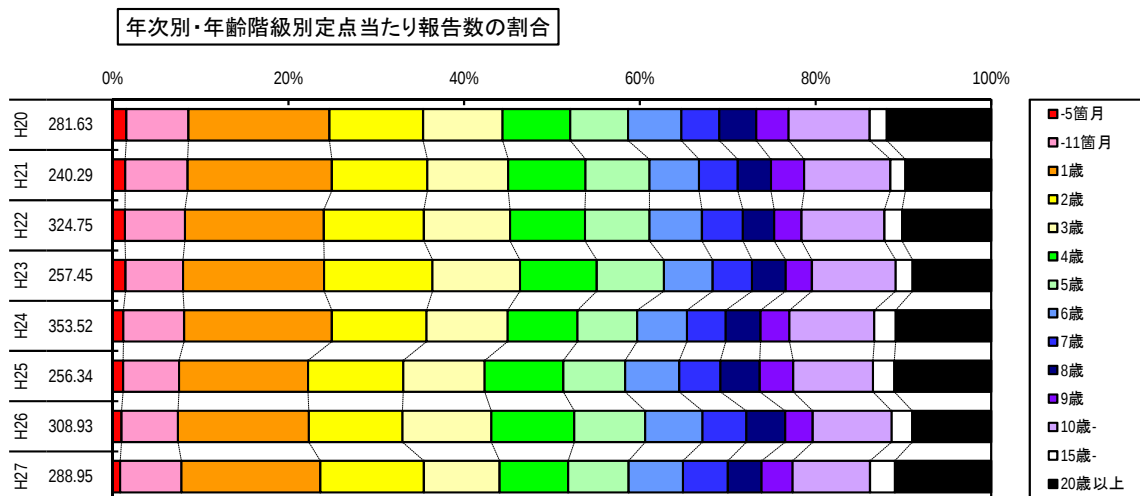
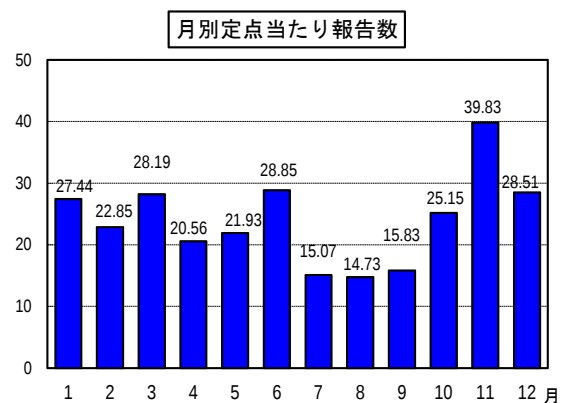
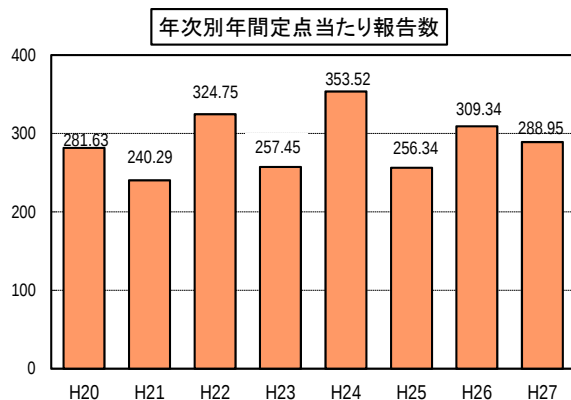
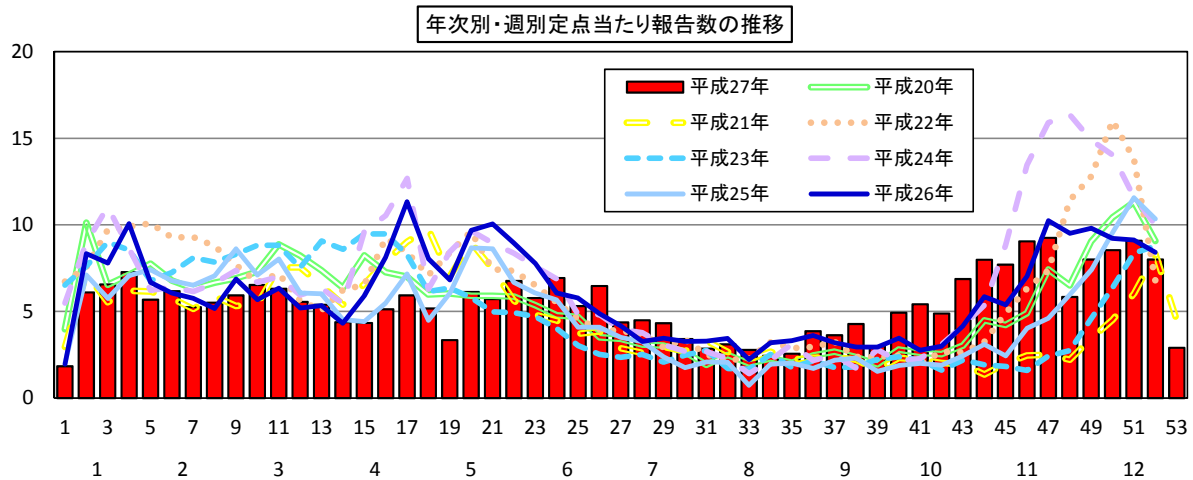
(エ) 感染性胃腸炎

平成27年は年間報告数11,847例、年間定点当たり報告数288.95、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.96、前年比0.93であった。

過去7年間の年間定点当たり報告数と比べると、平成24年、平成22年、平成26年に次いで多かった。

月別定点当たり報告数では11月(39.83)、6月(28.85)が多く、7月～9月は少なかった。

年齢階級別では、1歳(15.8%)が最も多く、次いで2歳(11.8%)、3歳(8.6%)となっていた。



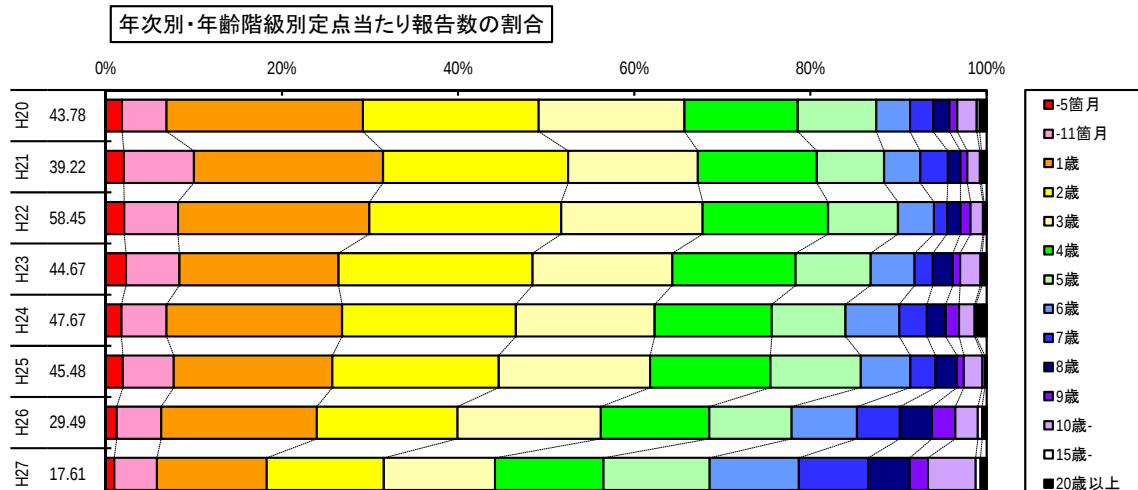
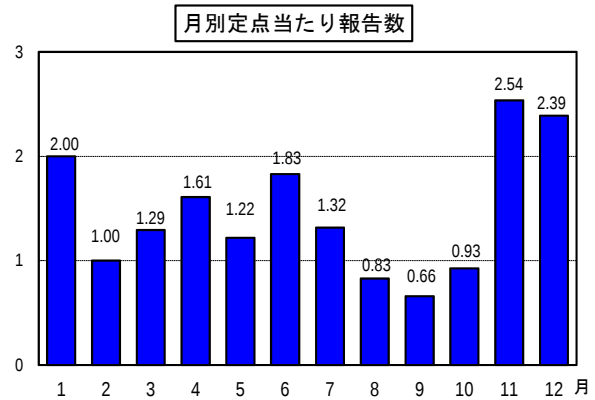
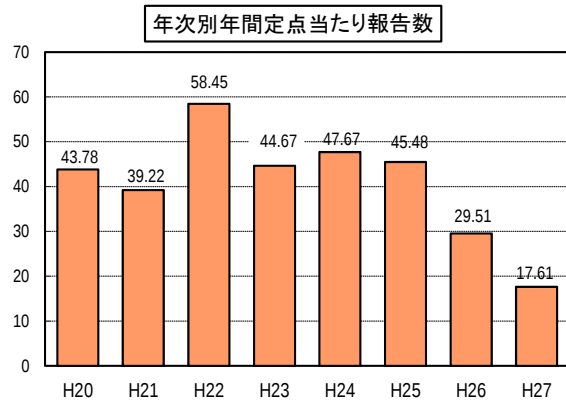
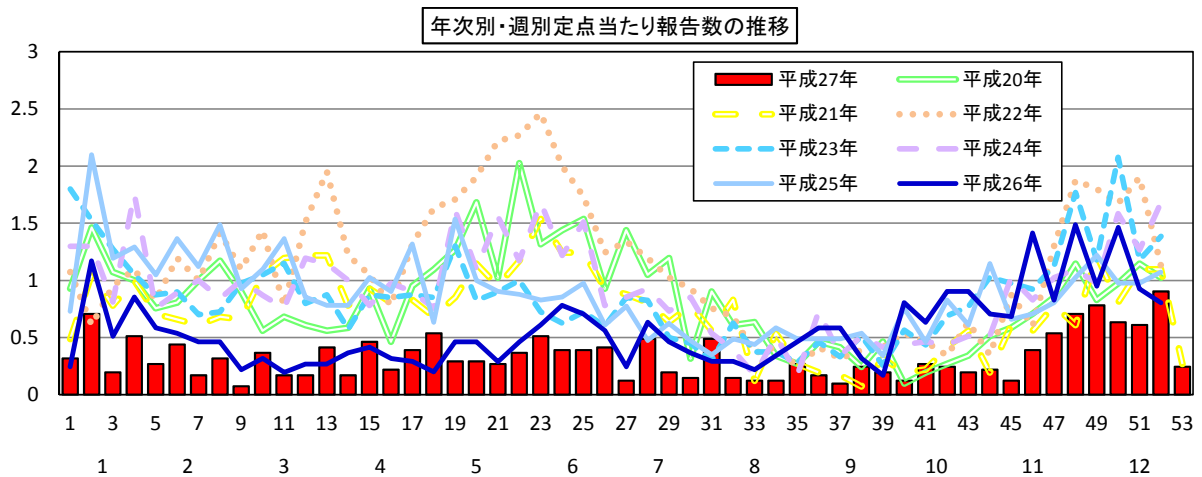
(オ) 水痘

平成27年は年間報告数722例，年間定点当たり報告数17.61，年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.39，前年比0.60であった。

年間定点当たり報告数が平成25年から3年連続して減少し，過去7年間で最少となった。

月別定点当たり報告数では，11月(2.54)，12月(2.39)が多かった。

年齢階級別では，2歳(13.3%)，3歳(12.6%)，1歳(12.5%)，4歳(12.3%)と1～4歳がほぼ同じ程度で，合わせて全体の50.7%を占めた。



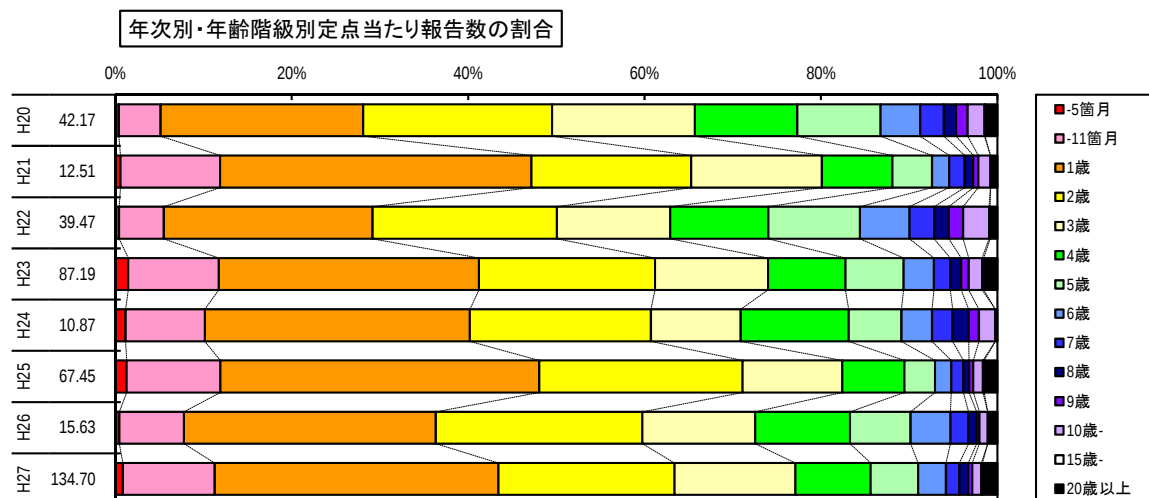
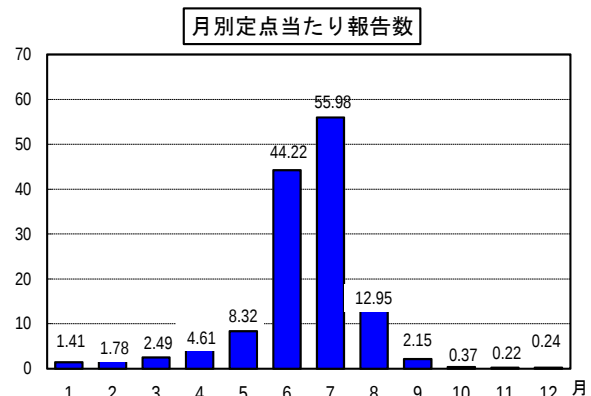
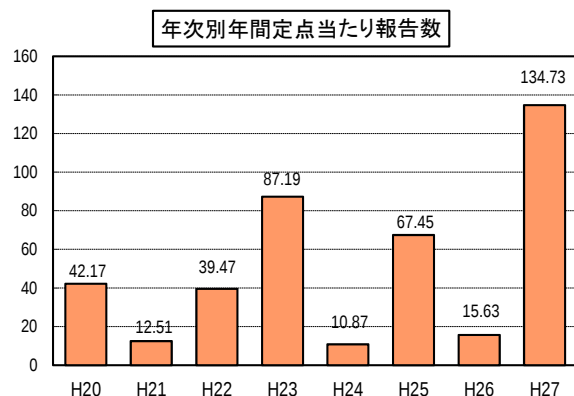
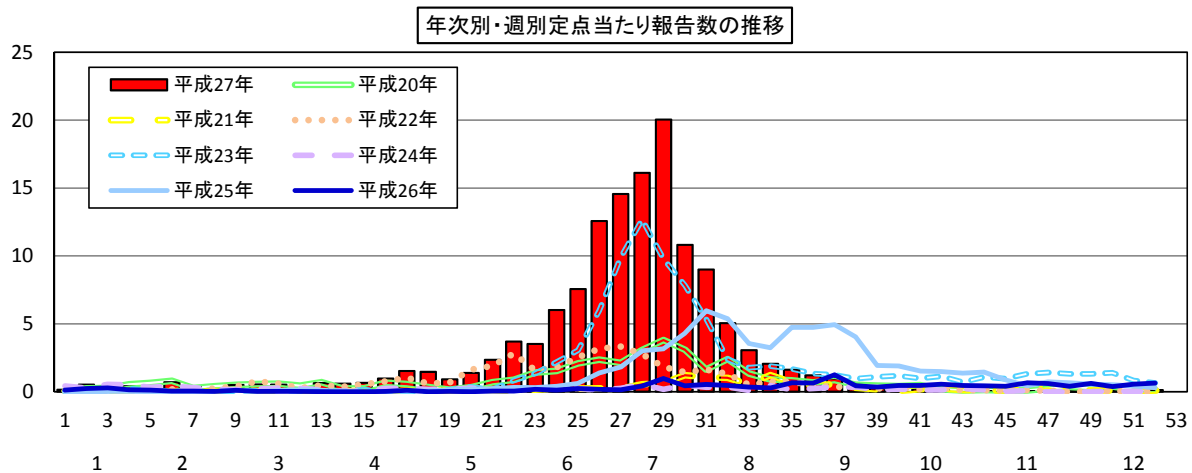
(カ) 手足口病

平成27年は年間報告数が5,526例に上り、年間定点当たり報告数が134.78になった。この年間定点当たり報告数は、過去5年平均値との比3.05、前年比8.62であった。

過去7年間の年間定点当たり報告数に比べても、際立って多かった。

月別定点当たり報告数は、7月(55.98)、6月(44.22)に集中的で、10月～12月の報告数は少なかった。

年齢階級別では、1歳(32.2%)が最も多く、次いで2歳(19.9%)、3歳(13.7%)の順となり、1～3歳が全体の65.8%を占めた。



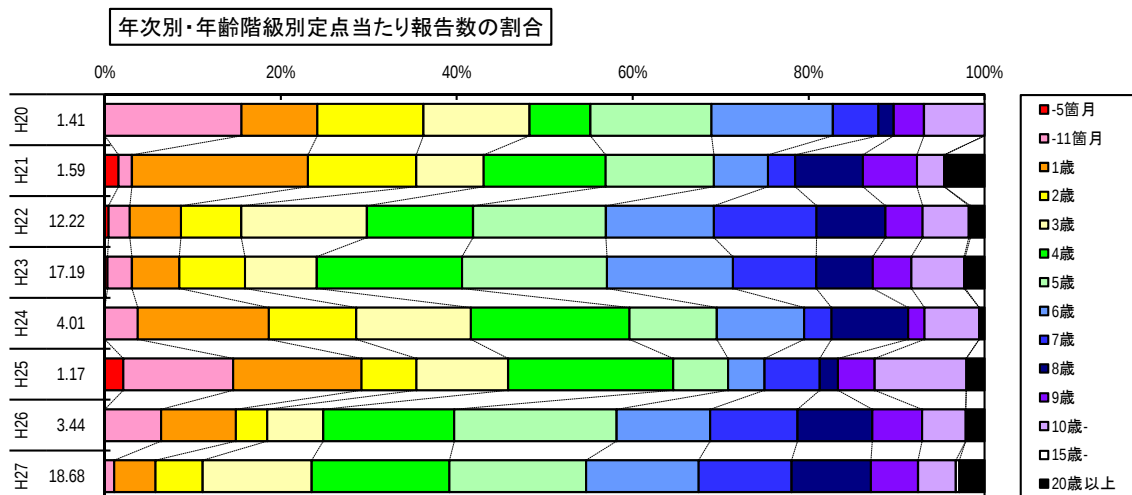
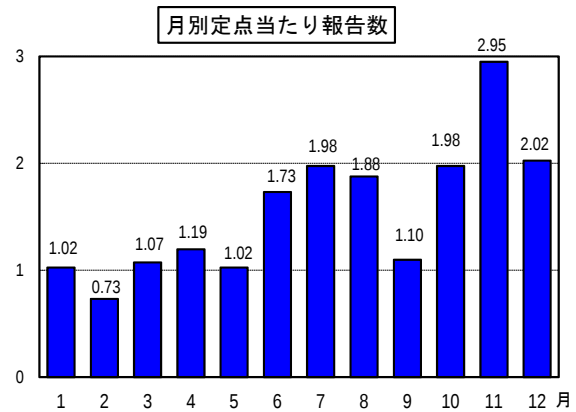
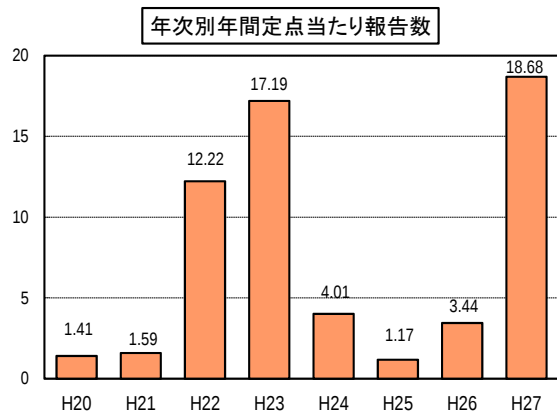
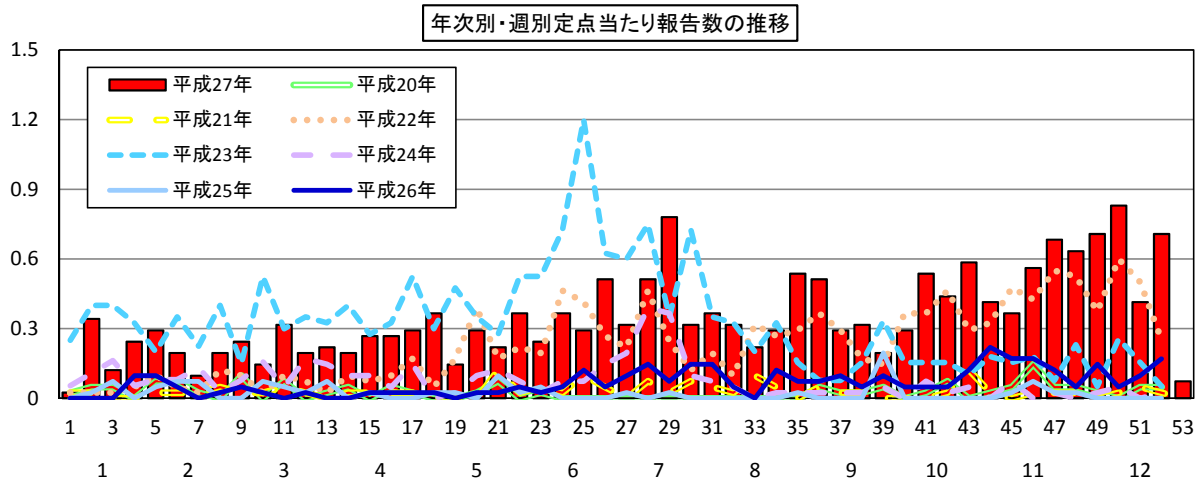
(キ) 伝染性紅斑

平成27年は年間報告数766例、年間定点当たり報告数18.68、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比2.46、前年比5.43であった。

過去7年間の年間定点当たり報告数の中で最も多かった。

月別定点当たり報告数では、11月(2.95)が最も多く、次いで12月(2.02)、10月(1.98)、7月(1.98)となっていた。

年齢階級別では、4歳(15.7%)と5歳(15.5%)が並んで多く、次いで6歳(12.8%)、3歳(12.4%)の順であった。



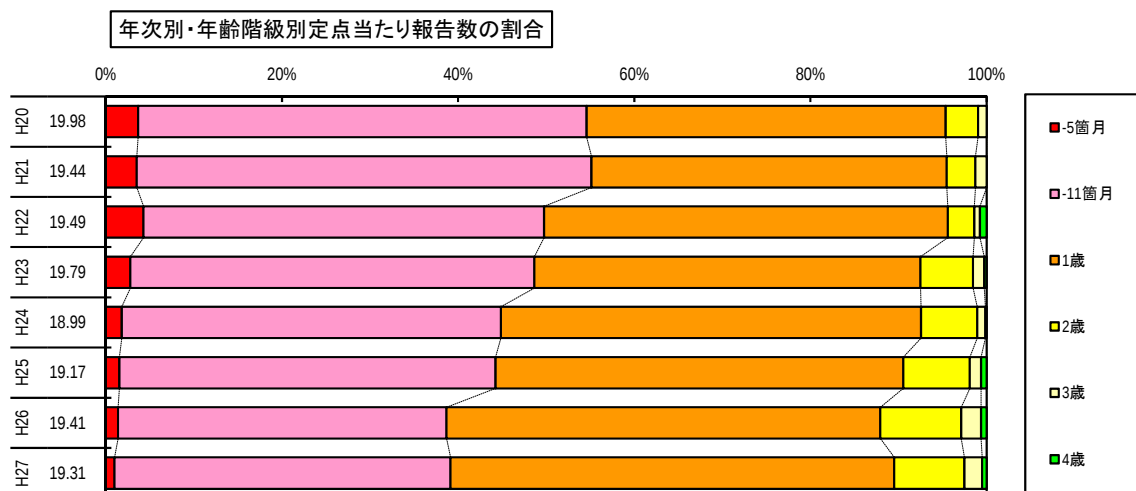
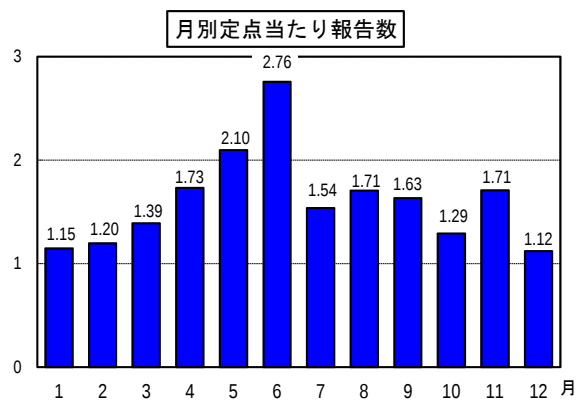
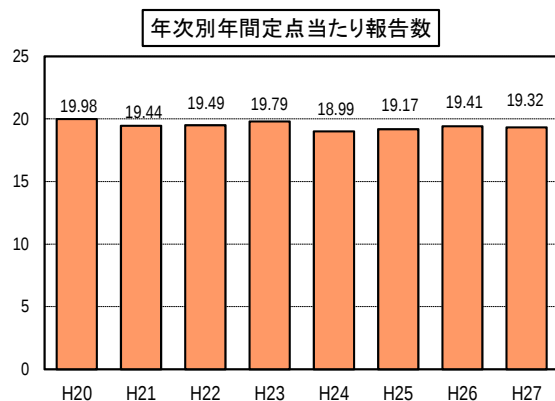
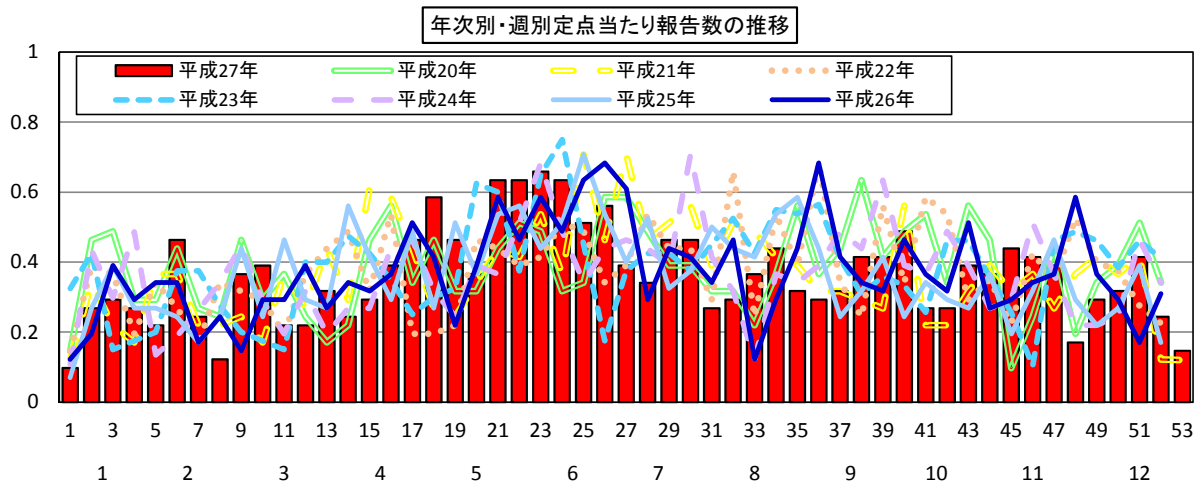
(ウ) 突発性発しん

平成27年は年間報告数792例、年間定点当たり報告数19.32、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比1.00、前年比0.99であった。

過去7年間の年間定点当たり報告数と比べると、平成24年、平成25年に次いで少なかった。

月別定点当たり報告数では、6月(2.76)、5月(2.10)が多かった。

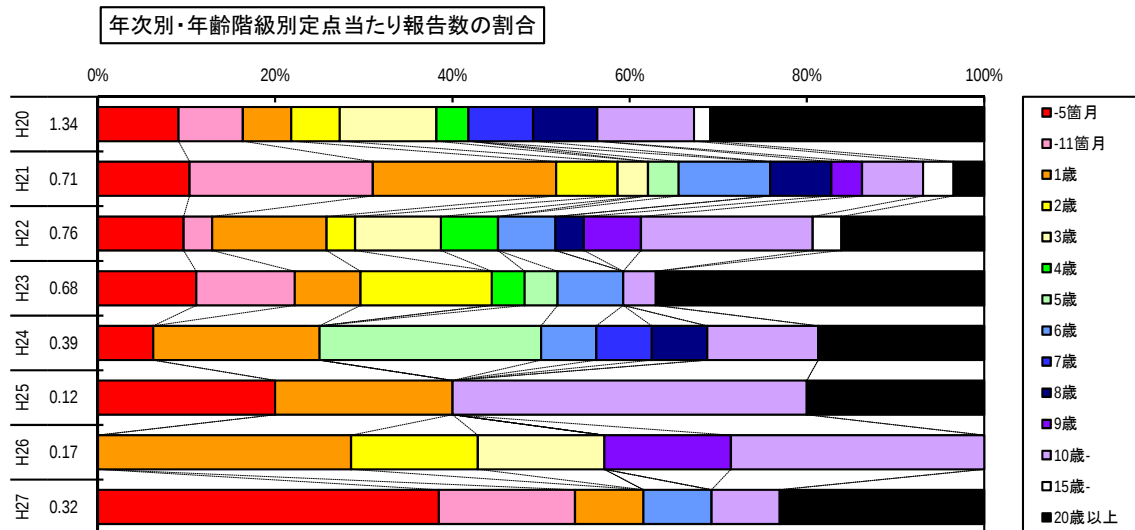
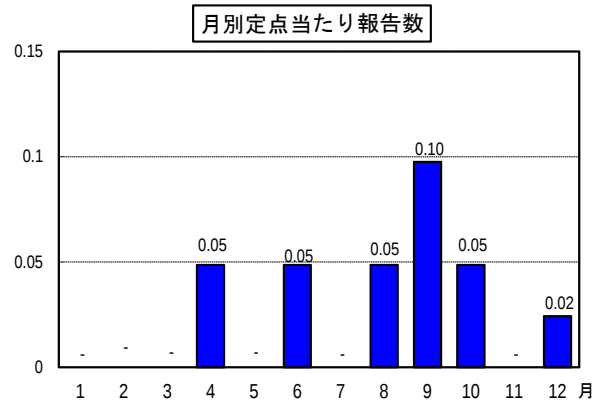
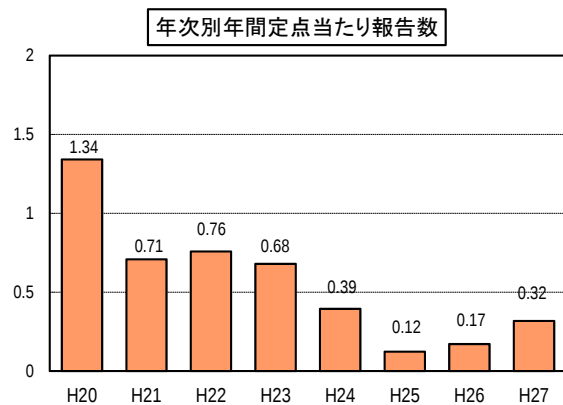
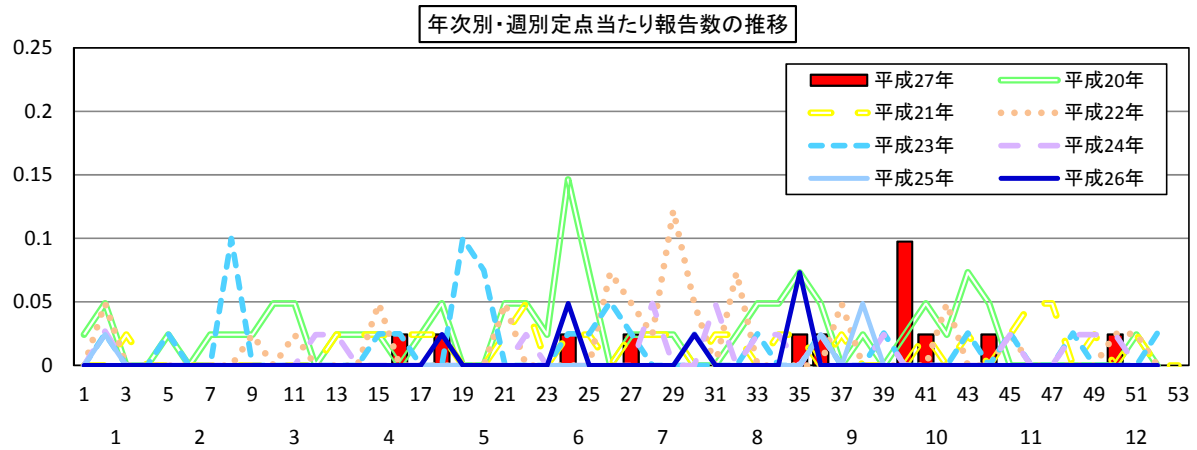
年齢階級別では、1歳(50.4%)が半数を占め、6箇月～11箇月(38.1%)の順で、1歳以下が全体の88.5%を占めた。



(ケ) 百日咳

平成27年は年間報告数13例、年間定点当たり報告数0.32、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.75、前年比1.86であった。

過去7年間の年間定点当たり報告数と比べると、平成25年、平成26年に次いで少なかった。



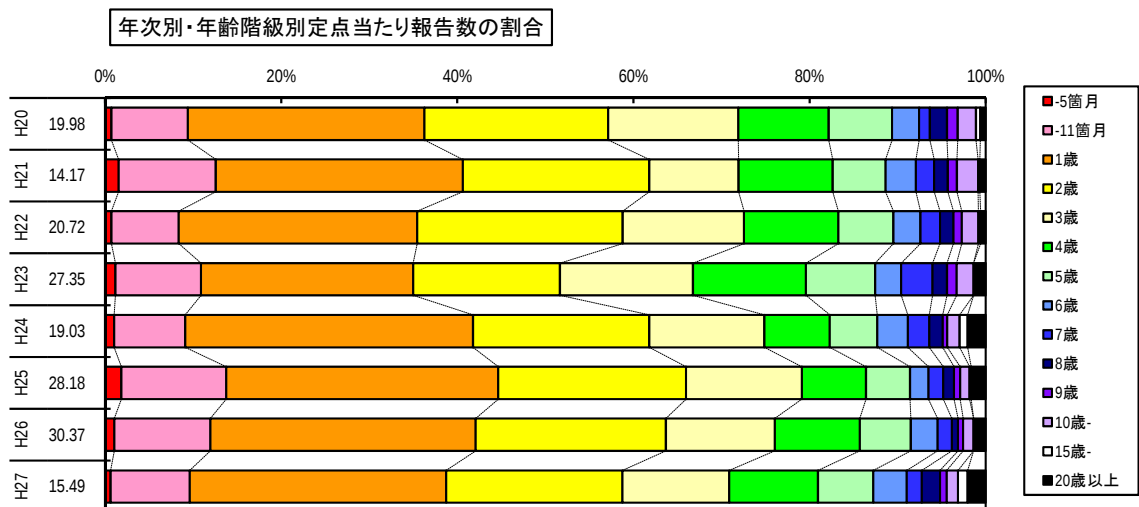
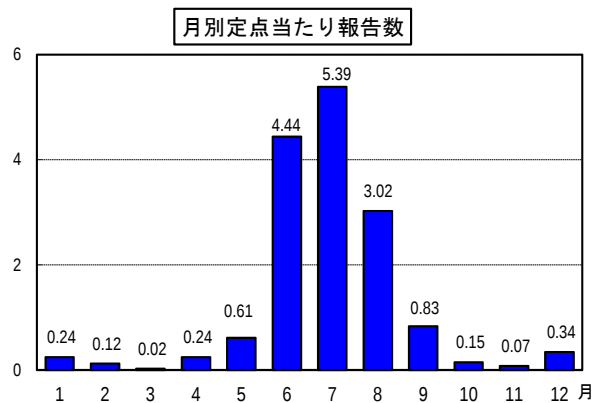
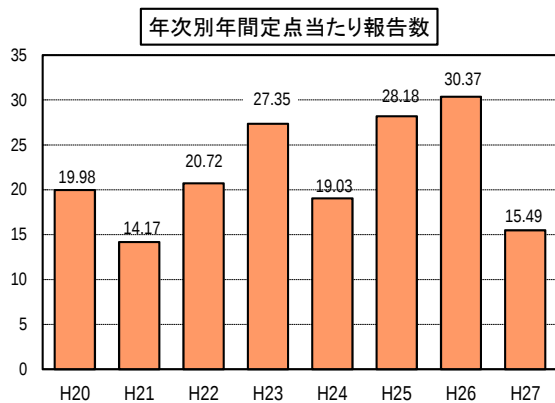
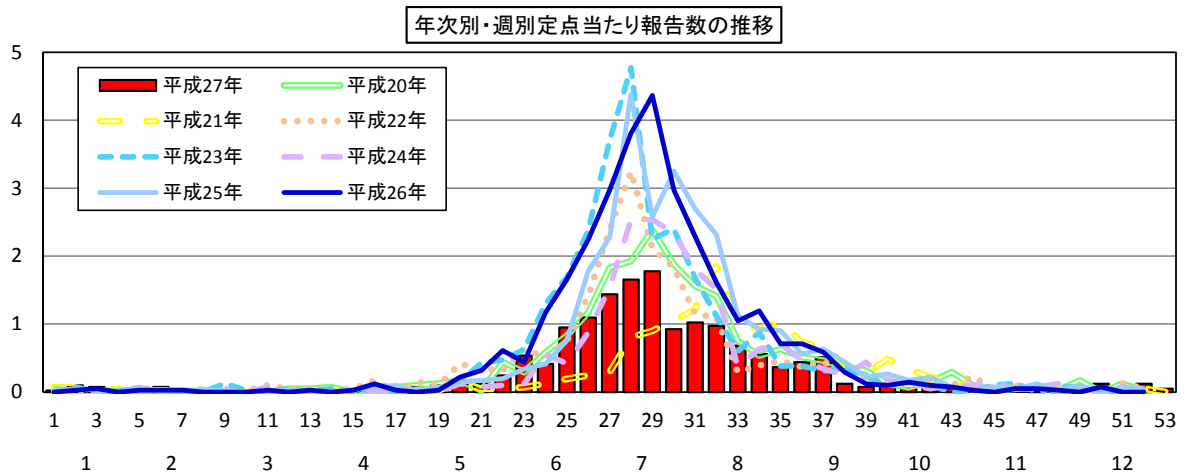
(ロ) ヘルパンギーナ

平成27年は年間報告数635例、年間定点当たり報告数15.49、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.62、前年比0.51であった。

過去7年間の年間定点当たり報告数と比べると、最も少なかった平成21年に次いで少なかった。

月別定点当たり報告数では夏季に多く、7月(5.39)、6月(4.44)、8月(3.02)の順であった。

年齢階級別では、1歳(29.1%)が最も多く、次いで2歳(20.0%)、3歳(12.1%)の順で、1～3歳が全体の61.2%を占めた。



(サ) 流行性耳下腺炎

平成27年は年間報告数575例、年間定点当たり報告数14.02、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.89、前年比2.50であった。

過去7年間の年間定点当たり報告数と比べると、平成22年、平成23年に次いで多かった。

月別定点当たり報告数では、11月(2.54)、12月(1.56)、6月(1.54)が多く、1月～4月の報告数は少なかった。

年齢階級別では、5歳(15.7%)が最も多く、次いで4歳(15.0%)、6歳(13.4%)の順で、4～6歳が全体の44.1%を占めた。

